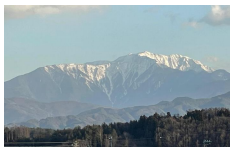
ああ　遠くの空は　晴れている



ＮＯ３９　　南箕輪村教育委員会

今回は、はにかむネット通信（村のキャリア教育情報）で取り上げられている南中２年の職場体験学習と小中学校の総合的な学習の時間の様子を紹介します。

はにかむネット 通信

南箕輪村のキャリア教育情報

VOL. 5
31 AUG, 2026
発行：富岡順子
（キャリア教育コーディネーター）

1学期の学びを、2学期へつなぐ。

はにかむネットとは？

南箕輪村の小学校2校、中学校1校、高校1校、短期大学校1校、大学1校のキャリア教育担当者をつなぐネットワークです。学校段階を越えて実践や地域資源を共有し、子どもたちの学びが次の学年・次の学校・地域へつながることを目指して、2022年にスタートしました。名前は、軽くて強いミツバチのハニカム構造から。
6校の力を持ち寄り、村全体でキャリア教育を育てていく願いを込めています。

小学校2｜中学校1
高校1｜短大1｜大学1

6校の学びをつなぐ

南箕輪中学校 2年生｜職場体験

働くことの意味が、「自分」から「社会」へ



職場体験の様子

5月27日・28日、2年生が村内外80事業所で職場体験に臨みました。生徒は少人数に分かれ、それぞれの仕事の現場へ。事前にはマナー講座を受講し、当日の心構え、挨拶、名刺の受け取り方などを確認しました。

企業との打ち合わせは、生徒自身が電話で実施。家庭で固定電話を使う機会が少ない生徒にとって、大人と話し、日程や持ち物など必要な情報を聞き取ることも貴重な経験です。緊張しながらも、自分の言葉で確認し、本番への準備を整えました。

体験後の振り返りでは、働くことを「自分のため」だけでなく、「人のため」「社会のため」と捉え直す姿が多く見られました。仕事の向こう側にいる誰かを意識したことで、社会の中での自分の役割を考える学びにつながっています。

大学生のPBL(Project Based Learning)が、中学生の探究を動かす



信州大学農学部｜地域協創特別コースPBL

地域協創特別コース1期生によるPBL中間報告会に参加しました。地域課題の解決に向け、学生は3グループに別れ探究活動を行いました。その一つが、農学部直売所「ゆりの木」の認知向上です。南箕輪中学校3年生と交流し、中学生にアンケートを実施。村の住民や子どもたちへ届ける方法を考えています。この交流をきっかけに中学生も同テーマを探究し始め、大学生のPBLから中学生へ新しい問いが広がっています。

南箕輪中学校 3年生｜総合的な学習の時間

村を知ることから、自分たちの企画へ

3年生の総合は、クラスの枠を越え、興味・関心でつながるグループで進行中です。役場や商工会、企業、大学、地域の専門家から話を聞き、自分たちで問いを立て、電話でアポイントを取り、現地で確かめながら活動を更新しています。7月21日の1日総合では時間をふんだんに使い、普段できない活動に取り組むことができました。熊の目撃情報から経ヶ岳の登山を断念する班もありましたが、思いどおりに進まないとき、別の問いへ進み直すことも探究の大切な学びです。



おやき作り



キーホルダー制作

7つのテーマが、地域と出会って動き出す

01 広報・PR

役場の広報担当者から、村の魅力を伝える仕事を学びました。まっくんの絵本やオリジナルグッズ、村民の歌の編曲、ふるさとCM大賞に向けた動画制作など、複数の方法で発信に挑戦しています。

02 自然・飛地

観光森林課から飛地や村の自然について講義を受けました。経ヶ岳登山は熊の目撃情報で断念しましたが、そこで活動を止めず、大芝高原の水質改善へ問いを切り替えるなど各々探究を続けています。

03 グルメマップ

村内のカフェや飲食店を調べ、自分たちで電話をして取材を依頼。商工会商業部の小松さんやニコテイルさんとも作戦会議を行い、集めた情報を多くの人に届ける方法を考えています。

04 特産品

大芝高原でプリンや味工房について話を聞いた後、食育インストラクターの高橋さんの指導で米粉のおやきを試作。野沢菜とあんこの二つの味を作り、村らしいメニューの可能性を探りました。

05 イベント・ものづくり

端材を使い、コースターやキーホルダーを制作。大芝まつりのフリーマーケット出店に向けて職人のように作業を進めました。イベント企画ではSUPを体験し、子どもたちが楽しめる内容と運営方法を考えています。

06 村内の人・企業と交流

保育園、グローリー、信州大学農学部の方々と交流し、それぞれが抱える困り事を聞きました。今後は、相手が必要としているものと自分たちにできることをすり合わせ、実際に役立つ支援へつなげます。

07 歴史探索

自転車で村内の遺跡を巡り、歴史を調査しました。調べた内容を後輩の学びや高校での探究にも活用できるよう、南信工科短期大学校の力を借り、2学期にデジタルマップへまとめることを検討しています。

**計画変更も、地域への電話も、
学びの一部。
探究の主役は、生徒です。**

小学校の学びは、暮らしと地域につながる





洗濯の様子

南箕輪小学校 5年2 組｜村産村消を知る

村生まれのイチゴを、自分たちのパフェに

5年2組は「ものづくり」をテーマに、村で生まれた食材を使ったパフェづくりに挑戦しました。訪ねたのは役場近くのいちご農家。信州大学農学部が開発した、村生まれ・村育ちの夏秋イチゴを自分たちで収穫しました。甘いイチゴを味わい、子どもたちからは歓声が上がりました。

学校に戻ってからは、集落支援員で「ベジかける」店主の内山さんの指導を受け、採れたてのイチゴでパフェづくり。収穫した食材を自分たちの手でデザートに仕上げました

普段食べているものは、どこで生まれ、誰が育て、どのように届いているのか。体験を通して、地域の産業や人の仕事に思いを巡らせる時間になりました。

南部小学校 6年生｜洗濯の出前講座

洗濯のしくみから、暮らしの中の科学へ

6年生は、長野県クリーニング組合の青年部4名の方に出前講座で来ていただき、洗濯の仕組みを学びました。洗剤の形と水との反応をイラストで確かめた後、自分たちの赤白帽子を手洗い。帽子を入れると桶の水はすぐ茶色になり、すすぐたびにきれいになる様子から、汚れが落ちることを実感しました。

ドライクリーニングの実験では、専用溶剤を入れた瓶と水を入れた瓶それぞれに紙を入れて比較。水では紙が崩れましたが、専用溶剤では形が残り、素材によって洗い方や洗剤を変える理由が見えてきました。

理科の授業として行ったものではありませんが、出前講座を通して、身近な暮らしの中に理科の学びにつながる見方があることに気づき、家庭の洗濯にも目を向けるきっかけになりました。

HOT ISSUE｜中教審資料を読み解く

キャリア・パスポートは、どう変わる？

特別活動ワーキンググループでは、全国一律の形式よりも、本来の目的である「見通し・振り返り」を重視する方向が示されています。形式を埋める作業から、子どもが経験を選び、意味づけ、次の学びにつなぐ活動への転換がポイントです。

01 国の例示資料は廃止し、学校の実態に合う多様な取組へ

02 総合・教科・行事の成果を、キャリア教育の視点で俯瞰

03 記録はクラウドなどで、子ども自身が管理する方向へ

04 蓄積物の学校間引き継ぎは求めない方向へ

※2026年5月時点の検討案です。正式決定までは現行の運用が続きます。

今からできること

「何を書かせるか」より、経験の意味を言葉にし、次の学びを見通せるか。

総合や行事の節目に、
①何をした？ ②何に気づいた？
③次にどうしたい？
の3問から。残したい成果物を子ども自身が選ぶことも一案です。